

# 「パッケージ導入の進め方」

1. 効果のあるパッケージ導入の条件
2. 業務改善・改革の視点
3. パッケージ導入の基本手順
4. パッケージ選択の条件
5. ERPパッケージへの見方
6. 危機管理(セキュリティ)への対応

# 1. 効果のあるパッケージ導入の条件

- 投資効果を実現し、事業基盤の強化を図るためには、次のような事項への考慮が大事なことと考えます。

- 「システムは道具」という認識による、業務改善・改革の実施  
→ システム導入を目的化すると良い結果は出にくい

- パッケージ適用と業務ルール・管理基準の改善は表裏一体  
→ プロジェクトによる上流工程の作業が左右する

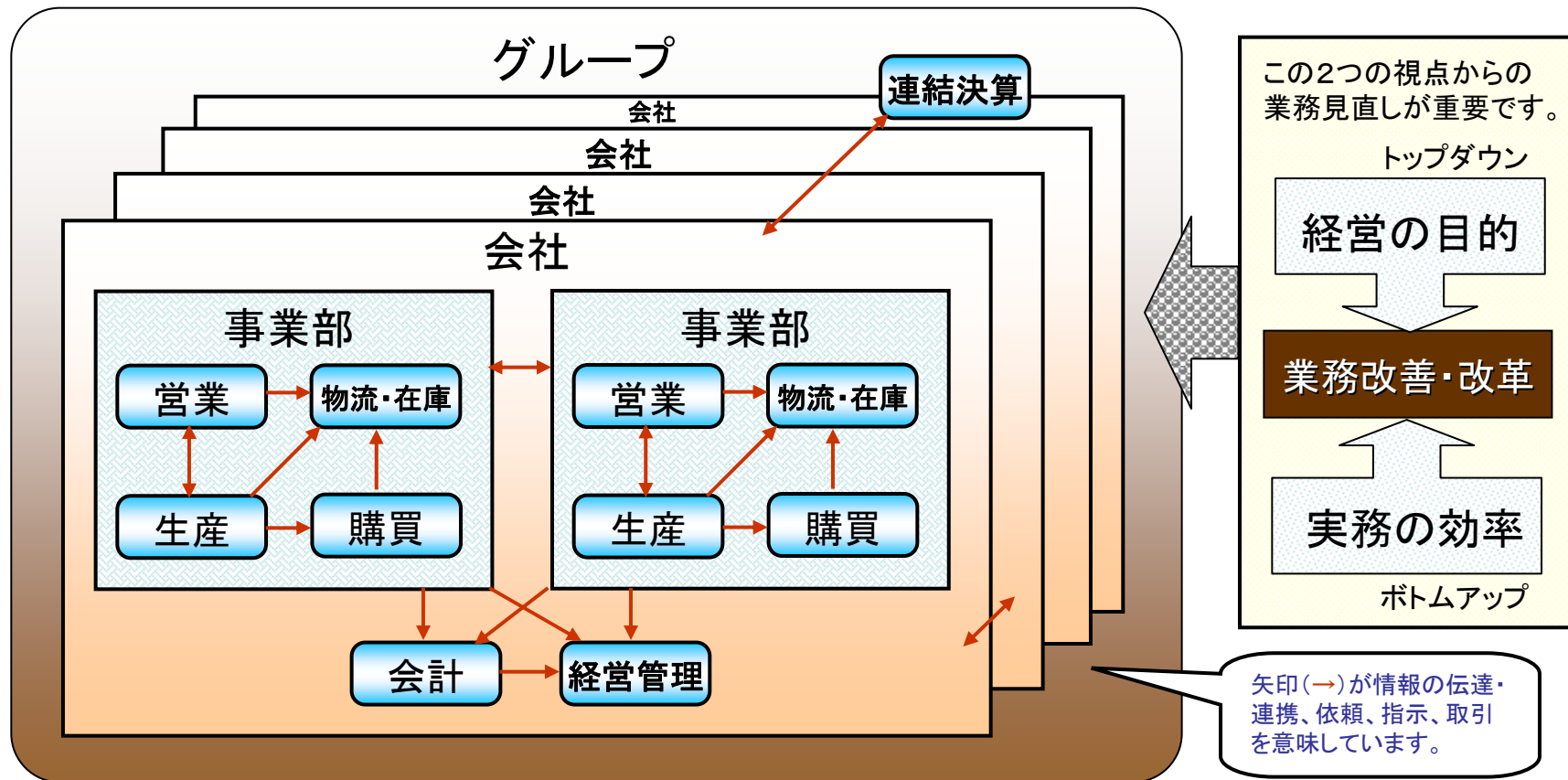
- 「部分最適」による集積が、全体最適の実現の道  
→ 経営から見た重要な業務・管理の改善がキーである

- 取引対応、経営管理の潜在問題は、業務間・部門間・事業部間に  
→ 横串(情報・役割変更・連携)を通すことに解決の糸口がある

- パッケージ選択は、抽象的な事柄でなく実務的な適用度が肝要  
→ 選択するための自社の条件作りがカギを握る

## 2. 業務改善・改革の視点

- 業務内・事業部内改善とともに、「業務間、事業部間などの改善」も重要です。ここに、情報システムを利用しての最適化があります。「経営の目的」「実務の効率」の視点も大事なことです。

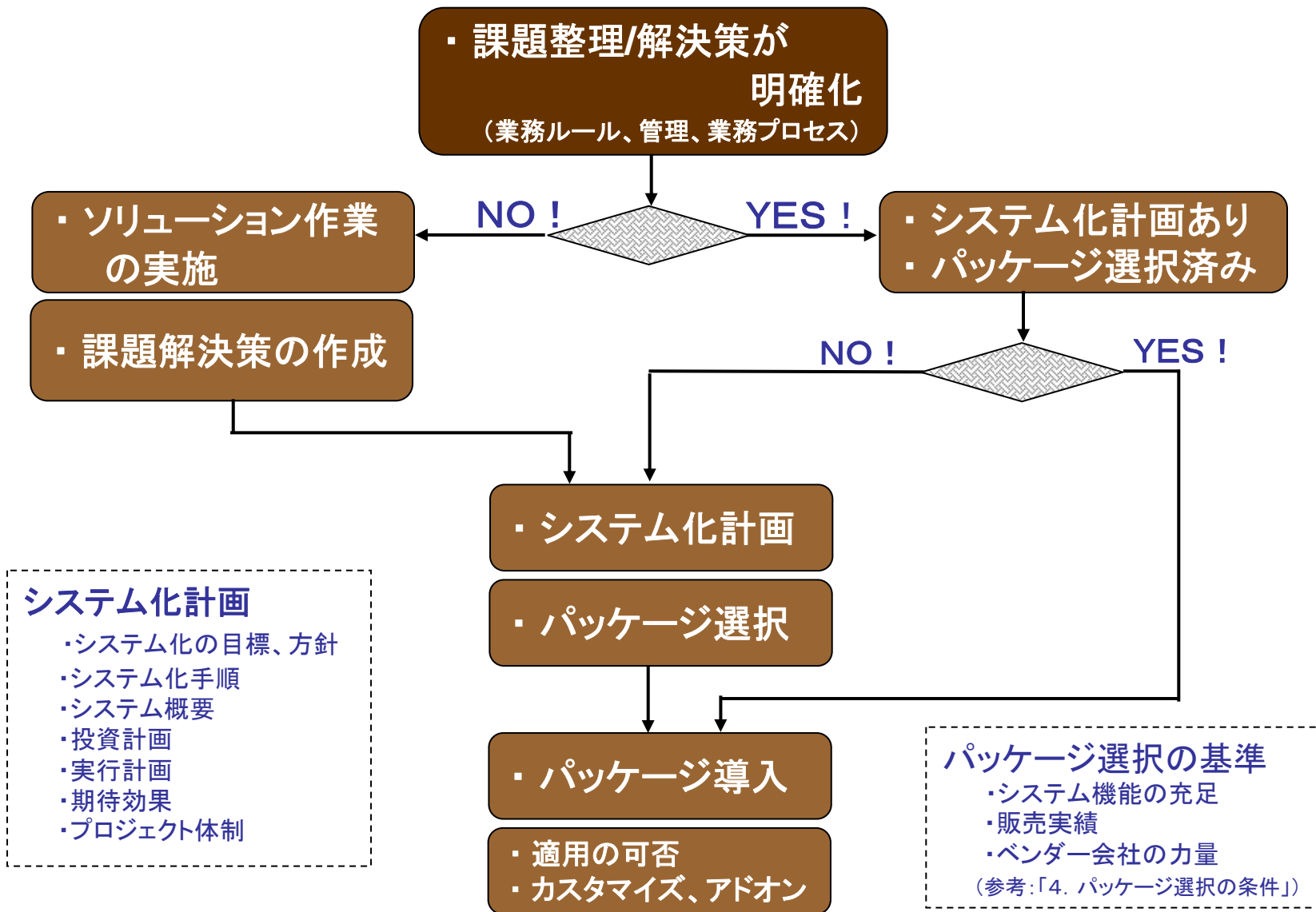


主な  
改善テーマ

- 「営業・購買・生産・会計」などの情報連携の早期化、精度向上
- 重複処理・2重入力などの無駄な作業の廃止、省力化
- 受注、損益、生産性、原価、内部取引などの状況把握の容易化
- 情報の流通、活用、蓄積と経営管理の強化

### 3. パッケージ導入の基本手順

- 価値あるパッケージ導入を行うためには、基本手順に沿う形をすすめます。無理なやり方はどこかで矛盾をきたし、当初の目的達成を困難にする可能性があります。



## 4. パッケージ選択の条件

- パッケージ導入は、大きな投資行為になります。投資効果を生み出すためには、「急がば回れ」でパッケージ選択の条件を明らかにし、導入手順を明確にした上で選択作業を行うことを薦めます。

「急がば回れ」

### パッケージの 選択条件

- (参考) ① 「パッケージ機能のフィットアンドギャップ」からのパッケージ導入は成果がでにくい。
- ② 現行システムからの置換えを目的としたパッケージ導入は投資の無駄を招きやすい。
- ③ カスタマイズがシステム機能の中枢を担うケースもあり得ます。

#### ● 「目的の明確化・課題の整理」

- － 何のためにパッケージを導入するのか
- － 目的達成のために必要なパッケージ利用の仕方は

#### ● 「中堅企業として、自社の直視」

- － 大企業のマネはできないし、マネは事故のもと
- － 事業基盤の強化のために、足元の仕組み創りを重視

#### ● 「ERPパッケージ機能より実務重視」

- － 抽象的なシステム機能より実務としての改善範囲は
- － どんな問題を解決すべきか、そこからシステム機能を

#### ● 「ベンダー提案のオリジナリティ」

- － 自社の課題解決と痒いところに手が届いているか
- － 総花的でなく、「パッケージは道具」の位置づけ

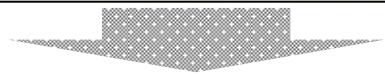
【参照】 → [ダウンロード資料「dl110 ベンダ選択の評価基準」](#)

# 5. ERPパッケージへの見方

- 「ERPパッケージ」の抽象的なアピールからの検討でなく、お客様の事業発展に寄与し、「課題解決」の道具としてのパッケージ選択が重要であります。

(注意:ERPという概念は当たり前と考えています。ここではそれを実現するというERPパッケージを想定しています。)

ERPパッケージの狙い	検討すべき内容	実務ポイント(例)
リアルタイムによる 情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務処理、管理においてリアル性を要求される情報は限られている。</li> <li>リアル確定する情報には、不可能なものがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷・売上不可などの取引情報</li> <li>入荷・仕入などの在庫情報</li> <li>発注・受注・生産などの承認要情報</li> <li>締め処理に伴う取引/諸掛情報</li> </ul>
データ統合による 情報管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引先からの要求による処理仕様とデータへの対応が不可欠である。</li> <li>伝票訂正、ケアレスミスなどのデータ変更ルールに基づく処理がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コード体系/カテゴリーがポイント</li> <li>業務プロセスの柔軟性確保</li> <li>訂正・締め・運用を前提にした処理</li> <li>営業・物流・生産・経理の業務分担</li> </ul>
経営としての 全体最適	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営から見ての「真の問題解決」を外さないことが大事である。</li> <li>「部分最適」の集合体が、実務的には全体最適になる側面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「システムありきでなく経営ありき」</li> <li>中期的に見ての問題解決が優先</li> <li>事業維持・発展分野の拡充、効率化</li> <li>省力化、顧客サービス向上がポイント</li> </ul>



- パッケージ導入の目的から「実務ポイント」を含めた検討が必要！
- 抽象的な言葉での判断でなく、あるべき事業・業務・管理での選択！

(ERP=Enterprise Resource Planning 経営資源の最適配置に基づく業務プロセスの最適化)

# 6. 危機管理(セキュリティ)への対応

● 情報システムは経営を支える事業基盤になっています。情報システムをガードする危機管理への対応は不可欠になっています。パッケージ導入の際に、検討に値するテーマでもあります。

## 危機管理の対象分野

\*「情報セキュリティ方針」の確立も必要！

- ハードウェア
- 組織、方針・ルール

### 災害

- ・ 地震、火災、天災保険
- ・ バックアップ、リカバリー

### 設備

- ・ 免震社屋ビル
- ・ 自家発電、無停電装置

### 防犯

- ・ 電算室の入退出管理
- ・ 監視設備

### システム運用

- ・ インフラ保守契約
- ・ 集中統合管理、外部委託

### データ管理

- ・ データの保存ルール
- ・ 出力データの運用ルール

- ソフトウェア
- 人、ルール・基準

### データ処理

- ・ データの直接更新不可
- ・ エラー、修正の手続き

### ウィルス

- ・ 対策ソフトの導入

### 情報アクセス

- ・ ファイアウォール
- ・ アクセス権限、ID管理

### 情報漏洩

- ・ 入出力接続の利用基準
- ・ 危険ソフトの禁止、検知

### 私的流用

- ・ インターネットの利用基準
- ・ ログ検索、利用制限